

国語シラバス 中学3年

1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(科目) 国語 I	3 単位	第 3 学年	・『国語 3』(光村図書) ・『入試頻出漢字＋現代文重要語彙 2500』(いっずな書店) ・『SCHOOL RENSEI 現代文 理解片』(育伸社) ※スタディサプリの通年講座から「中 3 国語(光村図書 国語)」を視聴すると、教科書に対応した講座を視聴することが可能。
学習の到達目標	・社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。《知識・技能》・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。《思考力・判断力・表現力》・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。《主体性・多様性・共同性》		
評価の観点	文章を理解したり表現したりするために必要な語句の量を増やすことができる。 さまざまな作品に触れる中で、登場人物の言動から心情を整理して作品の主題を捉え、その上で社会全体や人間一般についての理解を深めることができる。 それぞれの文章の構成や論理の展開のしかたを把握し、筆者の主張を読み取り、筆者の物事の見方・主張を捉えることができる。また、作者の主張を理解することにより新たな視点を獲得し、自分の考えの幅を広げることができる。		

【定期考査における観点別評価について】

年間 5 回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の 3 観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

- A : 「十分満足できる」状況と判断されるもの 100%
- B : 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの 80%
- C : 「努力を要する」状況と判断されるもの 60%
- D : 未提出, 未実施 0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単 元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学 期 中 間 考 査 ま で	①小説「握手」 井上ひさし ②論説「作られた『物語』 を越えて」 山極寿一	【①の単元について】①登場人物の心情や人物像を表す言葉、比喩表現などに着目し、登場人物の生き方や価値観を読み取る。②時間・場所（空間）など、「現在」と「回想」の部分を読み分けるポイントとなる語句を確認し、物語の展開のしかたの効果について考える。【②の単元について】①精読する中で、具体と抽象の関係を理解する。②一般的な常識と筆者の独自の見解を比較しながら筆者の主張への理解を深める。③筆者の主張を確認した上で、主張と関連する社会の課題について思考する。	使用教材「国語3」
1 学 期 期 末 考 査 ま で	①俳句「俳句の可能性」宇 多喜代子 ②エッセイ「アラスカとの 出会い」 星野道夫 ③「実用的な文章を読もう」 「報道文を比較して読もう」	【①の単元について】①俳句表現の奥深さに触れ、搜索につなげる。②俳句のおおよそを理解し、俳句を読み味わう。 【②の単元について】①他人の回想を通して「出会い」や「人生」について自分事として捉え、自分の将来について考える。②文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつことができる。【③のたんげんについて】①実用的な文章や報道文を読むことを通して社会に目を向ける。②必要な情報を正確に読み取る力を身に付ける。③自分の考えを人に伝えることをスピーチで実践してみる。	使用教材「国語3」
2 学 期 中 間 考 査 ま で	①小説「故郷」 ②詩「初恋」 島崎藤村	【①の単元について】①再会と別れの物語を通して時代や社会との関わりや人間の姿について考える。②情景や人物を描写する語句や表現に着目し、登場人物の心情や作者の意図を読み取る。【②の単元について】①文語の響きや定型詩のリズムを味わう。②象徴表現を捉える。	使用教材「国語3」

2 学 期 期 末 考 査 ま で	①論説「それでも、言葉 を」 鷺田清一 ②随筆「二つの悲しみ」 杉山龍丸	【①の単元について】 ① 「言葉のありよう」について考えていくことを通して、自分の言葉と向き合い、言葉を用いて他者と関わり合う、その在り方を考える。 ② 筆者の問題意識から文章全体の論理構造を捉える。 ③ 具体的な事例を基に、抽象的な概念への理解を深める。 【②の単元について】 ① 先人が時代の状況とどのように関わり、対峙してきたかを捉えることで、現代に生きる自分たちが受け継ぐものは何かを考える。 ② 表現の特徴に注意して読み、筆者の表現意図を理解する。	使用教材「国語 3」
3 学 期 期 末 考 査 ま で	①小説「高瀬舟」 森鷗外 ②随筆『温かいスープ』 今道友信	【①の単元について】 ① 現代とは異なる時代背景を推測しながら、現代にも通じる普遍的なテーマや問いについて考える。 ② 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。 【②の単元について】 ① 筆者の考える「国際性」を捉え、国際社会における生き方について自分の考えを持つ。 ② 当時の世界情勢や日本の置かれていた状況について想像する。	使用教材「国語 3」

【成績評価の概要について】	
(1) 学期における評価の対象 ① 中間考査：100 点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ② 期末考査：100 点（知識・技能や、思考力・表現力の評価） ③ 漢字テストや提出物、授業への取り組み姿勢などの平常点：60 点（関心・意欲・態度などの評価）と「国語Ⅱ」の平常点 40 点との合算で評価する。	
(2) 学期評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は 40 点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが 3 時間、国語Ⅱが 2 時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計 400 点に対し、平常点合計は 100 点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。	
(3) 年度末評定の算出方法 ① 国語Ⅱと合算し、評定を算出する。 ② 国語Ⅱも、(1)の①と②は同様であるが、③は 40 点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが 3 時間、国語Ⅱが 2 時間であるため)。 ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計 1000 点に対し、平常点合計は 250 点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。	